

国語科学習指導案

指導者 阿部明弘

1 日時 令和元年10月8日(火) 6校時

2 学級 2年6組 男子14名 女子18名 合計32名 東校舎3階2年6組教室

3 主題 単元名「いにしへの心を訪ねる」
中心学習材 「扇の的」～『平家物語』から～ (光村図書「国語2」)

4 主題について

「平家物語」は、平氏の興隆と滅亡の姿を「平曲」という形で語り継いできた歴史物語である。冒頭の「祇園精舎」では物語のテーマ「諸行無常」という仏教の理を説く序文としての性格を持っている。時代の流れに翻弄され、戦い、破れていく人間の姿が描かれており、栄華を極めた人々の滅亡を描くことを通して、亡き人を鎮魂し、苦しい現世を生きる人々を結縁させることを主題としている。

生徒は、小学校で「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「奥の細道」「浦島太郎」「枕草子」「和歌」を音読しており、平家物語についても多くの生徒が聞き覚えのあるものであろう。昨年度「竹取物語」「矛盾(故事成語)」の学習を通して、「なぜ現代まで語り継がれているのか」「古典は現代でも使えるのか」といった疑問を解決している。

しかし、古典の学習には「歴史的仮名遣い」と「現代仮名遣い」や「古語の意味」をとらえることに抵抗があり、苦手としている生徒が多いことは容易に想像できる。そこで、「平家物語」特有のリズミカルな調子の文章を音読活動および群読活動を意図的に取り入れ、「扇の的」に描かれている人の動きを想像させ、そこからわかる人物の心情を、丁寧に対話を通して捉えさせていきたい。

5 本時の達成目標

「扇の的」の場面に出てくる那須与一が平家側の舟に立てかけられた扇を射落とすまでの心情を記述から読み取り、なぜ、死を覚悟してまで射落とさねばならなかったのかを交流することを通して、当時の武士の考え方や感じ方を記述することができる。

6 評価場面での生徒の記述例

【読む能力】

おおむね満足 B	十分満足 A
射損じれば源氏の恥になり、命令にそむくことになる。命令の従わなければ切腹する時代であったから。	自分の失敗は源氏軍及び義経の恥になる。義経(上司)に恥をかかせてしまえば、死んでわびるしかないという武士の考え方があったから。(なぜ源氏の恥になるかが記載されている)

7 振り返りの場面での生徒の記述例

平家物語の時代は、武士が多くの場合、死の覚悟をもって敵と戦っていたことがわかった。また、昔の人も神様にお祈りをしていたんだと思うと、現代の人の感覚と同じであることもわかった。古典は現代とつながっているんだと思った。

8 本時の展開

段階	学習内容	指導上の留意点 評価の観点・方法 ◆教材・教具等
導入 7分	1 授業前学習の解答を確認する 2 前時に学習した内容を確認する。 3 学習課題を把握する。	1 漢字検定4級の書き問題の正解を確認する。 2 前時に取り上げた話題を解決していくことを確認する活動であることを確認する。 【主体的】与一が死を覚悟してまでしなければならなかった理由を説明できるか。投げかける。
展開 40分	4 文語文の前半の場면을音読し、与一を取り巻く情景を指摘する。(全体) ・日暮れ時で双方陣を引きかけている場面である。 ・与一は二十歳前後の男 ・一度は辞退するが、義経の命令は絶対であることがわかる。 ・弓の腕が確かである。 5 与一はなぜ死を覚悟してまで扇を射落とそうとしたのか。 (個人→複数人との対話) ・上司の命令だから。 ・そういう時代だから。 ・源氏のみんなが注目しているから ・源氏の恥になるから。 ・自分の名声を上げることができる ラストステップ 6 課題の結論を全体で確認し合い、自己の考えを修正、訂正させる。 (全体→個人)	4 文語文、現代語訳から情景をとらえ、与一の置かれた状況を「なぜ」を通してとらえさせる。 ・時はどのようなタイミングだったのか。 ・与一とはどのような人物か。 ・なぜ、与一だったのか。 ・なぜ、最後まで断らなかったのか。 【自己との対話】自分の考えを文で表現する。 【他者との対話】考えの交換、加除修正する。 5 描かれている情景を根拠に自分の考えを文で表現する。後に自分の周囲の者と考えの交換を行い、加除修正を行う。 5 【読むこと】 射損じれば源氏の恥になり、命令にそむくことになる。命令の従わなければ切腹する時代であったから。 A：自分の失敗は源氏軍及び義経の恥になる。義経に恥をかかせられず、死んでわびる武士の考え方があったから。(なぜ源氏の恥になるかが記載されている) C：自分の恥以外に誰の恥になるかを考えさせ、対話させる。 6 全体で発表し合い、課題に対するよりよい表現は何かを考えさせながら発表を聞かせ、随時自分の書いた文を修正させる。
終末 3分	7 学習の振り返り(個人)。 古文学習用の振り返りシートで活動を振り返る。	【リフレクション】できたこと、できなかったこと、自己の変容を記録させる。 ◆学習プリント

9 指導と評価の計画

2 年 国語		単元名「いにしへの心を訪ねる」 中心学習材「扇の的」～『平家物語』から	総時間 4 時間扱い
学習指導要領の指導事項		単元の目標	
我が国の言語文化に関する事項 (ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。 (イ) 現代語訳や語注などを手掛かりにして作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。 読むこと (イ) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。 (エ) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。		古文や漢文を朗読して、それぞれの文体の持つ調子やリズムを味わう。 朗読を通して古典に親しむとともに、登場人物や作者のものの見方や考え方に触れる。	
時	主な学習内容	おおむね満足 (B)	
1	「平家物語」についてのVTRから情報を得て、平家物語とはどのような物語なのかをつかむ。 「扇の的」を音読や群読を通して場面の内容をつかむ。	関 「平家物語」とはどのようなものなのかをメモを取りながらとらえようとしている。 伝 「平家物語」の特有のリズムに慣れ、特徴をつかんで音読、群読しようとしている。	
2 (本時)	なぜ、与一は命を懸けてまで「扇の的」を射落とさなければならなかったのかを説明する。	関 登場人物の心情についての考えを進んで話し合っている。 読 場面の状況を読み取り、その場に置かれた人物の心情を考えている。	
3	「年五十ばかりなる男」を射倒したのはなぜだったのかを説明する。	関 登場人物の心情についての考えを進んで話し合っている。 読 場面の状況を読み取り、その場に置かれた人物の心情を考えている。	
4	「扇の的」の場面に描かれている源氏や平氏の姿から当時の武士の生き方をまとめ説明する。	読 「平家物語」に描かれた世界をとらえ、登場人物のものの見方や考え方について自分の考えをまとめている。	